

<Study Note> The History of Japanese Ghost Stories in Modern Literature : The Chapter of the Prewar and Wartime Showa(Humanities)

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-07-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 三浦, 正雄 メールアドレス: 所属:
URL	https://saigaku.repo.nii.ac.jp/records/777

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



〈研究資料〉

日本近現代怪談文学史年表

— 昭和戦前・戦中編 —

三 浦 正 雄

この資料は、『日本近現代怪談文学史〈明治編〉』（『山陽学園短期大学紀要』第34巻収録、平成15年12月刊）・『日本近現代怪談文学史〈大正編〉』（『山陽学園短期大学紀要』第35巻収録、平成16年12月刊）の続編である。

前二編にも記したように、日本では、近現代の大衆文学わけでも怪談文学に関する研究が非常に立ち遅れている。この原因は欧米の合理主義・物質科学万能主義・分析主義・論理中心主義の非常に皮相な輸入にある。この『日本近現代怪談文学史年表』は、近現代怪談文学研究のための基礎資料を提起しようというものである。

本編は、その昭和戦前・戦中編という事であるが、この時期を俯瞰したところ、新たな展開が見出せるように考える。

前二編で記したように、怪談文学には、主に二種の流れがある。読本・歌舞伎・講談・落語などの近世文学・近世文化の延長線上に位置する怪談文学は、近代作家江見水蔭・泉鏡花・岡本綺堂・大泉黒石・田中貢太郎・平山廬江・野村胡堂らに継承され、大衆文学の勃興とともに伝奇小説・時代小説などに流れ込んでゆく。

一方、欧米文学や欧米文化の影響のもとに成立した怪奇文学は、大正期には文壇の中心的な存在である作家たちにも多大な影響を与えて、様々な作品が生まれた。大正期は、スウェーデンボルグ、メーテルリンク、ブレイ

クなど神秘主義哲学の流行、オリヴァー・ロッジ、フルールノイ、バーレット、フラマリオンら心靈学の隆盛、ポー、ドイルらの作品の訳出などにより、怪談のよってたつ基盤である神秘主義的文化の雰囲気醸成された。そのため、谷崎潤一郎・佐藤春夫・小川未明らが神秘主義に接近し、また、『新青年』の創刊によって〈変格探偵小説〉というカテゴリーのもとに、SF作家と並んで多数の怪奇作家の誕生を見る結果となった。

昭和戦前期はこの流れを引き継ぎ、谷崎潤一郎・佐藤春夫らに続いて、川端康成・坂口安吾・石川淳らの文壇作家が、神秘主義へと接近している。

一方、『新青年』を舞台として次々と怪奇作家がデビューし、育っていった。ことに江戸川乱歩・横溝正史・夢野久作・小栗虫太郎・久生十蘭らの強烈な個性をもつ作家たちが活躍した。また、牧逸馬・橋外男・城昌幸らの活躍も見逃せない。

心靈学や妖怪研究、伝説研究、そして神智学などの隆盛も続いている。

しかし、太平洋戦争に突入して、状況は一変する。三橋一夫・高橋鐵・森銑三ら独自の個性をもつ作家たちが秀作を発表するが、大勢は沈黙を余儀なくされてゆく。

以上、昭和戦前・戦中編の概観である。

それでは、年表資料の記号などについて、再度、説明を加えておきたい。

この年表中には、無印の作品、⊙・⊕・⊗などの記号のついた作品がある。また、→という記号も使用されている。

先述したように、日本では、近現代において、大衆文学の軽視が見られ、そのため、この分野の作品は、発表誌などにおいても、他分野の作品と混在せざるを得なかった。明治初期には少年誌、中期には冒険小説誌、大正期には探偵小説誌というように、細分化されたジャンルとしては本来異なったジャンルの雑誌に寄生する形で、怪奇小説は発表された。このため、怪奇小説であると同時に冒険小説であったり、児童文学であったり、SF小説であったり、探偵小説であったりするわけで、なかなか厳密にはジャン

ルわけしにくい面がある。

そこで、便宜上、もっとも怪談・怪奇文学に近いと思われる作品を無印で掲載し、それに隣接する周辺に位置すると思われる作品をⓈという記号で記した。ここには、SF小説・冒険小説・探偵小説・児童文学・幻想文学・心霊学・神秘哲学書・神秘主義宗教書などもふくまれている。

また、怪談・怪奇小説に直接関係する出来事や、こうした文学の前提となる異世界の存在に対して否定的ではない神秘主義・心霊学・超心理学などに関する事件を、Ⓣという記号で記した。

さらに、外国文学の怪奇小説およびその周辺にあると思われる幻想文学・冒険小説・SF小説・児童文学などをⓊという記号で記した。また、怪奇小説の映画化された作品は、Ⓧとした。

最後に、雑誌掲載の場合は、→の記号以下に、単行本化された時の題名と出版社および発行年月を記した。

発行月が記されていない書物も多かった。具体的に発行月を記していない場合は、できるかぎり調査をし、調査してわからない場合は無記入とした。

参考文献

- 尾崎秀樹『大衆文学』紀伊国屋書店、昭和39年4月。
 尾崎秀樹『大衆文学論』勁草書房、昭和40年6月。
 鶴見俊輔『大衆芸術』河出書房、昭和29年3月。
 『幻想文学』33号、幻想文学出版会、平成4年1月。
 尾之上浩司編『ホラー・ガイドブック』角川ホラー文庫、平成15年1月。
 社会思想社・白水社・集英社・福武書店・河出書房・立風書房・角川書店・光文社・春陽堂・角川春樹事務所・筑摩書房・学研・徳間書店等各出版社の怪談・怪奇小説アンソロジー解説。

年	事 項
大正15年 昭和元年	<p>岡本敬二（綺堂）『青蛙堂鬼談』（春陽堂 3月）</p> <p>角田喜久雄『底無沼』（『新青年』5月）</p> <p>夢野久作『あやかしの鼓』（『新青年』5月）</p> <p>石浜金作『都会の幽霊』（『文芸時代』8月）</p> <p>片岡鉄兵『青白い夕暮の幽霊』（『文芸時代』8月）</p> <p>梶井基次郎『Kの昇天』（『青空』10月）</p> <p>岡本敬二（綺堂）『近代異妖篇』（春陽堂 10月）</p> <p>江見水蔭『夜の蜘蛛』3巻（樋口隆文館）</p> <p>江見水蔭『怪奇小説 切られ牡丹』（博文館）</p> <p>須藤鐘一『怪奇小説 女難懺悔』（白揚社）</p> <p>田中貢太郎『支那小説 蛇精』（改造社）</p> <p>田中貢太郎訳著『剪刀新話』（瞿佑）（新潮社）</p> <p>『ストリンドベルク全集』第6（小宮豊隆訳『幽霊曲』収録） （岩波書店 9月）</p> <p>『支那文学大観 第12巻』（蒲松齡著、田中貢太郎訳『聊斎志異』収録） （支那文学大観刊行会）</p> <p>『世界短篇小説大系 英吉利篇 上』（カニングハム作、柳田泉訳『幽霊船の話』、ロゼッテイ作、松原至大訳『手と霊』、ラム作、柳田泉訳『魔女の叔母』収録）（近代社）</p> <p>『世界短篇小説大系 探偵家庭小説篇』（ホフマン作、木村信児訳『廃屋』、ガボリオ作、柳田泉訳『呪われたる家』、コリンズ作、木村信児訳『夢の女』収録）（近代社）</p> <p>㊦葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』（『文芸戦線』1月） （→『淫売婦』春陽堂）</p> <p>㊦倉田啓明『死刑執行人の死』（『新青年』1月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『踊る一寸法師』（『新青年』1月）</p> <p>㊦小酒井不木『人工心臓』（『大衆文芸』1月）</p> <p>㊦小酒井不木『恋愛曲線』（『新青年』1月）</p> <p>㊦谷崎潤一郎『友田と松永の話』（『主婦の友』1～5月）</p> <p>㊦泉鏡花『絵本の春』（『文藝春秋』1月）</p> <p>㊦松永延造『アリア人の孤独』（『不同調』2月）</p> <p>㊦イナガキタルホ『星を売る店』（金星堂 2月）</p> <p>㊦甲賀三郎『悪戯』（『新青年』4月）</p> <p>㊦小酒井不木『呪われの家』（『女性』4月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『鏡地獄』（『大衆文芸』10月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『パノラマ島奇談』（『新青年』10月—昭和2年4月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『人でなしの恋』（『サンデー毎日』10月）</p>

年	事 項
大正15年 昭和元年	<p>㊦水谷準『恋人を食べる話』（『探偵趣味』10月）</p> <p>㊦横光利一『蛾はどこにでもゐる』（『文藝春秋』10月）</p> <p>㊦寺田寅彦『怪異考』（『思想』11月）</p> <p>㊦林房雄『絵のない絵本』（春陽堂 12月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『一寸法師』（『朝日新聞』12月—昭和2年3月）</p> <p>㊦藤森淳三著、武井武雄絵『小人国の話』（実業之日本社）</p> <p>㊦武井武雄『ラムラム王』（叢文閣）</p> <p>㊦正岡蓉『風船紛失記』（改善社）</p> <p>㊦坪田譲治『正太の馬』（春陽堂）</p> <p>㊦白井喬二『神変呉越草紙』（衆文社）</p> <p>㊦白井喬二『忍術自来也』（衆文社）</p> <p>㊦豊島与志雄『シャボン玉』</p> <p>㊦豊島与志雄『天狗笑い』</p> <p>㊦おくの耕三『爆笑漫画映画 怪物探険』（おくの耕三刊）</p> <p>㊦柳田国男『山の人生』（郷土研究社 11月）</p> <p>㊦洪江羽化『五行易活断』（三才社）</p> <p>㊦吉川観方『絵画に見えたる幽霊』（美術図書出版部）</p> <p>㊦日野巖『趣味研究 動物妖怪譚』（養賢堂）</p> <p>㊦佐藤隆三『江戸傳説』（坂本書店）</p> <p>㊦福来友吉『精神統一の心理』（日本心靈学会）</p> <p>㊦中尾良知『透視と其の实例』（大石堂出版部）</p> <p>㊦山口鍼三郎『心靈学摘要』（冲天社）</p> <p>㊦武田芳淳『心靈の偉力』（日本心靈大学出版部）</p> <p>㊦『万国怪奇探偵叢書』16（オルツイ著、植松正訳『恐怖の巷』収録）、17（オルツイ著、植松正訳『紅ハコベ』、18（ウキリアム・ル・キウウ作、藤原時三郎訳『誘惑の日』）（金剛社）</p> <p>㊦『怪奇探偵叢書』4（チェスタアトン、藤原時三郎訳『木曜日の人』）（金剛社）、19（ジュール・クラルチイ著、松村博三訳『心理写真』）（紅玉堂）、20（N・S・リンコルン著、松村博三訳『日米の秘密』）（金剛社）、22（コナン・ドイル著、伊藤喬信訳『ホルムスの冒険』上巻）（紅玉堂書店）</p> <p>㊦探偵傑作叢書第40編（ハワード・エヴァンス著、巨勢洵訳『怪奇探偵殺人倶楽部』）、第41編（アーサー・リーヴ著、延原謙訳『怪奇探偵拳骨』）、第44編（カロリン・ウエルズ、小川水村訳『怪奇探偵名の無い男』）、第45編（ドゥーゼ、小酒井不木訳『怪奇探偵 生ける宝冠』）（博文館）</p> <p>㊦稲垣足穂、雑誌『文芸時代』怪奇幻想小説号（8月号）を編集する。</p>

年	事 項
大正15年 昭和元年	㊦福来友吉、高野山大学教授となる。 ㊦ハンス・ドリーシュ、SPR 第 26 代会長となる。 ㊦ベルナース『悪魔の陽の下に』
昭和 2 年	松浦美寿一『B 墓地事件』（『新青年』2月） 片岡鉄兵『赤い首の絵』（『新青年』2月） 芥川龍之介『河童』（『改造』3月） 野村胡堂『奇談クラブ』（『報知新聞』5月3日～8月16日） （→桃源社 昭和44年） 岡本綺堂『探偵夜話』（春陽堂 5月） 大泉黒石『怪奇小説集 眼を捜して歩く男』（騒人社書局 7月） 瀬下耽『柘榴病』（『新青年』10月） 田中貢太郎『怪談傑作集』（騒人社） 田中貢太郎『怪談青灯集』（騒人社書局） 江見水蔭『怪奇童話集』（博文館） ㊦宮原晃一郎『虹猫の話』（『赤い鳥』1月） ㊦水谷準『空で唄う男の話』（『新青年』3月） ㊦高垣眸『豹の眼』（大日本雄辨会講談社 3月） ㊦水谷準『お・それ・みお』（『新青年』4月） ㊦葉山嘉樹『死屍を食う男』（『新青年』4月） ㊦土師清二『砂絵呪縛』（『東京朝日新聞』『大阪朝日新聞』夕刊6月10日～12月31日）（→朝日新聞社） ㊦渡辺温『父を失う話』（『探偵趣味』7月） ㊦柳田国男・芥川龍之介・菊池寛・尾佐竹猛『柳田国男・尾佐竹猛座談会』（『文藝春秋』7月） ㊦渡辺温『可哀想な姉』（『新青年』10月） ㊦稲垣足穂『瓶詰奇談』（『新青年』10月） ㊦小酒井不木『死体蠟燭』（『新青年』10月） ㊦芥川龍之介『齒車』（『文藝春秋』10月） ㊦宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（推定成立年） ㊦地味井平造『魔』 ㊦瀧口修造『仙人掌兄弟』 ㊦園頼三『怪奇美の誕生』（創元社 10月） ㊦森作太郎『心霊研究と新宗教』（心霊科学研究会） ㊦祖嶺凡堂『心霊主義と宗教』（霊光堂本部） ㊦武田芳淳『病者の為めに』（東京心霊療院） ㊦岡田建文『動物界霊異誌』（郷土研究社）

年	事 項
昭和2年	<p>㊦真継雲山『冥途の旅日記 地獄極楽見物』（日本佛教新聞社）</p> <p>㊧『探偵傑作叢書』50（欧米名作家著、森下雨村訳編『怪奇探偵 探偵名玉集』（博文館）</p> <p>㊨北園克衛、雑誌『薔薇・魔術・学説』を創刊する。 （5冊、昭和2年11月～昭和3年2月）</p> <p>㊩デスノス『自由か愛か!』、J・グリーン『地上の旅人』</p>
昭和3年	<p>土師清二『青鷺の霊』（『週刊朝日』2～9月）（→朝日新聞社 昭和3年）</p> <p>岡本綺堂『妖婆』（『文芸倶楽部』4月）</p> <p>岡本綺堂『古今探偵十話』（春陽堂 8月）</p> <p>夢野久作『死後の恋』（『新青年』10月）</p> <p>夢野久作『瓶詰の地獄』（『獵奇』10月）</p> <p>田中貢太郎『怪談全集 歴史篇、現代篇』</p> <p>田中貢太郎『怪奇物語』（有宏社）</p> <p>泉鏡花・柳田国男・長谷川時雨・里見弴他『幽霊と怪談の座談会』（『主婦の友』）</p> <p>『昭和大衆文芸全集』第2巻（田中貢太郎『古今綺談怪談傑作選集』収録）、第3巻（大泉黒石『怪奇小説 眼を捜して歩く男』収録、6月）（第一出版協会）</p> <p>日本名著全集刊行会編『日本名著全集』第1期江戸文芸之部第10巻「怪談名作集」（都賀庭鐘『御伽婢子』収録）、第13巻「読本集」（山東京伝『桜姫全伝曙草紙』収録）、第16巻～第18巻（滝沢馬琴『南総里見八犬伝』）（日本名著全集刊行会）</p> <p>『近代日本文学体系』第10巻「脚本集」（鶴屋南北『いろは仮名四谷怪談』収録）、第12巻「黄表紙集」（文耕堂『怪談豆人形』、十返舎一九『怪談筆始』収録）、第13巻「怪異小説集」（上田秋成『雨月物語』、瓢水子松雲『伽婢子』、浅井了意『狗張子』他）（国民図書）</p> <p>日本随筆大成編集部編『日本随筆大成』第二期第1巻（滝沢馬琴編『兎園小説』収録）、第二期第2巻（滝沢馬琴編『兎園小説外集』『兎園小説別集』収録 6月）、第二期第3巻（滝沢馬琴編『兎園小説余録』『兎園小説拾遺』、山東京伝『近世奇跡考』収録）、第三期第7～8巻（松浦静山『甲子夜話』収録）、第9～10巻（天野信景『塩尻』収録）（日本随筆大成刊行会）</p> <p>文芸家協会編『大衆文学集』第1集（土師清二『果心居士の幻術』、畑耕一『怪談二つ』他収録）、第3集（江戸川乱歩『押絵と旅する男』、平山盧江『妖怪カフェ』他収録）、第4集（岡栄一郎『髑髏の怪』、加藤武雄『雪女』他収録）（新潮社）</p>

年	事 項
昭和3年	<p>渥美清太郎編・校訂『日本戯曲全集 歌舞伎篇 第11巻 鶴屋南北怪談狂言集』（『皿屋敷』『小幡小平次』『牡丹燈籠』『累一』『東海道四谷怪談』『独道中五十三駅』他）（春陽堂）</p> <p>『日本戯曲全集 現代篇 第3輯 岡本綺堂篇』（『番町皿屋敷』収録）（春陽堂）</p> <p>巖谷小波『小波お伽全集 第1巻 怪奇篇』（小波お伽全集刊行会）</p> <p>㊦妹尾アキ夫『凍るアラベスク』（『新青年』1月）</p> <p>㊦夢野久作『人の顔』（『新青年』3月）</p> <p>㊦城昌幸『ジャマイカ氏の実験』（『新青年』3月）</p> <p>㊦海野十三『電気風呂の怪死事件』（『新青年』4月）</p> <p>㊦幸田露伴『魔法修行者』（4月）</p> <p>㊦妹尾アキ夫『恋人を食う』（『新青年』5月）</p> <p>㊦牧野信一『村のストア派』（『新潮』6月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『陰獣』（『新青年』8～10月）（→博文館 11月）</p> <p>㊦草野心平『草野心平詩集 第百階級』（銅鑼社 11月）</p> <p>㊦龍膽寺雄『アパートの女たちと僕と』（『改造』11月）</p> <p>㊦瀧口修造『地球創造説』（『山繭』11月）</p> <p>㊦梶井基次郎『桜の樹の下には』（『詩と詩論』12月）</p> <p>㊦龍膽寺雄『放浪時代』（『改造』）</p> <p>㊦牧逸馬『第七の天』</p> <p>㊦浅野和二郎『心霊講座』（嵩山房 6月）</p> <p>㊦角田寿斎『一名降神術 心霊活動神秘の示現』（心友社）</p> <p>㊦友清欽真『古神道秘説』（神道天行居）</p> <p>㊦乾猷平『蕪村妖怪絵巻』（北田紫水文庫）</p> <p>㊦乾猷平『蕪村妖怪絵巻解説』（北田紫水文庫）</p> <p>㊦岡田建文『大自然の神秘と技巧』（丁未出版社）</p> <p>㊦田島靈珀・桂尊霊『純正哲理難病心霊治療法講義録』（日本霊学通信学校）</p> <p>㊦『世界大衆文学全集』第15巻（ハルボウ著、秦豊吉訳『メトロポリス』収録、11月）、第28巻（ハガード著、平林初之輔訳『洞窟の女王』『ソロモンの宝窟』収録 7月）（改造社）</p> <p>㊦浅野和二郎・福来友吉が、ISF第3回国際会議（ロンドンで開催）に参加する。福来友吉が、念写の事実と研究を発表する。</p> <p>㊦藤沢衛彦が、日本伝説学会を設立する。</p> <p>㊦酒井勝軍、日本超古代史の研究に没頭し始める。</p> <p>㊦雑誌『パンテオン』（4月～昭和4年1月）『詩と詩論』（厚生閣書店、9月～昭和6年）『グロテスク』（グロテスク社、～昭和4年）『ドノゴトンク』『文芸都市』創刊される。</p>

年	事 項
昭和3年	㊦ マンデリシュターム『エジプトのスタンプ』、ブルトン『ナジャ』 V・ウルフ『オーランドー』
昭和4年	江戸川乱歩『押絵と旅する男』（『新青年』6月） 大仏次郎『怪談』（『改造』9月）（→『怪談その他』天人社 昭和5年） 大泉黒石『趣怪綺談 燈を消すな』（大坂屋号書店 9月） 泉鏡花『山海評判記』（『時事新報』11月） 中河与一『吸血鬼』 大仏次郎『幽霊船伝奇』（先進社） 宮本謙吾『聖城怪談録』全2巻（碧水閣文庫） 『世界大衆文学全集』第24巻（ウエルズ著、木村信児訳『宇宙戦争』 収録、8月）、第25巻（羅貫中著、佐藤春夫訳『平妖伝』、12月）、 第30巻『ポオ・ホフマン集』（江戸川乱歩訳、4月）、第35巻『世界 怪談名作集』（岡本綺堂訳、8月）、第36巻『世界怪奇探偵事実 物語集』（松本泰訳、9月） ㊦ 江戸川乱歩『芋虫』（初出題『悪夢』（『新青年』1月） ㊦ 夢野久作『押絵の奇蹟』（『新青年』1月） ㊦ 江戸川乱歩『孤島の鬼』（『朝日』1月～昭和5年2月） （→『孤島の鬼』改造社 昭和5年） ㊦ 妹尾アキ夫『本牧のヴィナス』（『新青年』2月） ㊦ 堀辰雄『不器用な天使』（『文藝春秋』2月） ㊦ 佐藤春夫『陳述』（『中央公論』4月） ㊦ 『現代の芸術と批評叢書』第2編（安西冬衛『軍艦茉莉』4月）、第 6編（北園克衛『白のアルバム』、6月）（厚生閣書店） ㊦ 佐藤春夫『更生記』（『福岡日日新聞』5～10月） （→新潮社 昭和5年9月） ㊦ 小酒井不木『闘争』（『新青年』5月） ㊦ 渡辺啓介『偽眼のマドンナ』（『新青年』6月） ㊦ 大下宇陀児『死の倒影』（『新青年』6月） ㊦ 夢野久作『鉄槌行進曲』（後に改題『鉄槌』（『新青年』7月） ㊦ 岡戸武平『五体の積木』（『新青年』8月） ㊦ 星田三平『せんとらる地球市建設記録』（『新青年』8月増刊号） ㊦ 牧逸馬『ヤトラカン・サミ博士の椅子』（『新青年』10月） ㊦ 中勸助『菩提樹の蔭』（『思想』10月） ㊦ 牧逸馬『世界怪奇実話』（『中央公論』10月～昭和8年3月） （→中央公論社 昭和5～7年）

年	事 項
昭和4年	<p>㊦川端康成『浅草紅団』（『東京朝日新聞』12月12日～昭和5年2月26日）（前編→先進社 12月）</p> <p>㊦渡辺啓介『オルドスの鷹』（『新青年』）</p> <p>㊦渡辺啓介『二十世紀の怪異』（アサヒ芸能出版）</p> <p>㊦芥川龍之介『西方の人』（岩波書店）</p> <p>㊦田中貢太郎『奇談全集 現代、歴史篇』2巻（改造社）</p> <p>㊦千葉省三『ワンワンものがたり』（金蘭社）</p> <p>㊦梅原北明『明治大正綺談珍聞集成』全3巻 （文芸市場社、下巻は史学館書房 2月～6年3月）</p> <p>㊦藤沢衛彦編『妖怪画談全集 日本編』2巻 （7月～昭和5年8月、日本美術学院）</p> <p>㊦寺田寅彦『化物の進化』（『改造』）</p> <p>㊦酒井潔『愛の魔術』（国際文献刊行会）</p> <p>㊦過耀良編『妖怪画談全集 支那編』（日本美術学院）</p> <p>㊦三浦関造『神性の体験と認識 日本より全人類へ』（モナス）</p> <p>㊦松原皎月『霊術講座』（洗心会本部）</p> <p>㊦有馬純清『心霊界の驚異』（万里閣書房）</p> <p>㊦浦川和三郎『心霊修行 3』（カトリック書店）</p> <p>㊦霊学研究会編、山県初男訳『靈魂世界』（神道天行居）</p> <p>㊦アレキサンドル・ワノフスキー編『妖怪画談全集 ロシア・ドイツ編』（日本美術学院）</p> <p>㊦クリシュムナルティ、星の教団を解散し、人間宣言をする。</p> <p>㊦浅野和二郎、東京心霊科学協会を設立する。高橋五郎・豊島与志雄らが参加する。</p> <p>㊦雑誌『オルフェオン』（4月～昭和5年2月）『遊牧記』（9月～）『文学』創刊される。</p> <p>㊦ラヴクラフト『ダンウィッチの怪』、クロウリー『ムーンチャイルド』、エルンスト『百頭女』、ブルガーコフ『巨匠とマルガリータ』（～昭和15年）、ヤン・ヴァイス『迷宮1000』</p>
昭和5年	<p>文芸社編集部『幽霊物語』（文芸社）</p> <p>城昌幸『吸血鬼』（『新青年』1月）</p> <p>『世界猟奇全集』第3巻（ゴーチエ著、江戸川乱歩訳『女怪』）（平凡社）</p> <p>『世界探偵小説全集』第1巻（ドイル著、江戸川乱歩訳『妖犬』）、第11巻（ルルー著、田中早苗訳『オペラ座の怪』）、第14巻『幽霊』（オッペンハイム著、和氣律次郎訳）（平凡社）</p>

年	事 項
昭和5年	<p>『世界大衆文学全集』第38巻（笹川臨風訳『水滸伝』）、第50巻（スウィフト著、鈴木彦次郎訳『ガリヴァの旅』）、第54巻（ユーゴー著松本泰訳『ノートルダムの尙僕男』）、第66巻（蒲松齡著、田中貢太郎訳『聊齋志異』）、第67巻（邱処機著、弓館小鱈訳『西遊記』）、第68巻（馬琴著、内田魯安庵訳『八犬伝物語』）</p> <p>㊦江戸川乱歩『獵奇の果』（『文芸倶楽部』1～12月） （→博文館 昭和6年）</p> <p>㊦片岡鉄兵『赤い首の絵』（『新青年』2月）</p> <p>㊦牧野信一『吊籠と月光と』（『新潮』3月）</p> <p>㊦橋本五郎『地図にない町』（『新青年』4月）</p> <p>㊦『新興芸術派叢書』第4編（井伏鱒二『夜ふけと梅の花』4月）、第19編（吉行エイスケ『女百貨店』）、第23編（川端康成『花ある写真』他収録 10月）（新潮社）</p> <p>㊦大下宇陀児『十四人目の乗客』（『サンデー毎日』6月）</p> <p>㊦前川佐美雄『植物祭』（素人社 7月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『評判小説 蜘蛛男』（『講談倶楽部』8月～5年6月） （→大日本雄弁会講談社 10月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『吸血鬼』（『報知新聞』9月27日～昭和6年3月12日） （→博文館 昭和6年）</p> <p>㊦川端康成『浅草紅団』前編（先進社 12月）</p> <p>㊦甲賀三郎『幽霊犯人』（平凡社）</p> <p>㊦春海亮『怪奇変態 処女解剖』（中村書店 8月）</p> <p>㊦藤沢衛彦編『妖怪画談全集 日本編下』（日本美術学院 8月）</p> <p>㊦浅野和三郎『幽魂問答』（心霊科学研究会 6月）</p> <p>㊦浅野和三郎『続幽魂問答』（心霊科学研究会 9月）</p> <p>㊦岡田建文『心霊不滅』（万里閣書房）</p> <p>㊦松原皎月『心霊治療法』（洗心会本部）</p> <p>㊦友清歡真述『霊山秘笈』（神道天行居）</p> <p>㊦牧逸馬『世界怪奇実話全集』3巻（中央公論社 ～昭和7年）</p> <p>㊦近藤信『日本伝説 怪奇茶話』（朝日書房）</p> <p>㊦尾崎久弥『怪草双紙画譜』（国際文献刊行会）</p> <p>㊦福来友吉『弘法大師の御霊影』（人文書院）</p> <p>㊦河原万吉訳『天界と地獄』（スエデンボルグ）（新生堂）</p> <p>㊦『現代の芸術と批評叢書』第17編（ブルトン著、瀧口修造訳『超現実主義と絵画』（厚生閣書店 6月）</p> <p>㊦天津教、弾圧される。（第一次弾圧）</p>

年	事 項
昭和5年	㊦ アプトン・シンクレア『メンタル・ラヂオ』、J・コリア『モンキー・ワイフ』
昭和6年	佐藤惣之助『鬼』（『凄気の凶』日向堂 1月） 米田三星『生きている皮膚』（『新青年』新年号） 城戸シュレイダー『決闘』（『新青年』2月） 米田三星『蜘蛛』（『新青年』4月） 吉川英治『ナンキン墓の夢』（『週刊朝日』春季増刊） 川崎長太郎『怪談愛憎地獄』（『ポケット講談』8月臨時増刊） 米田三星『告げ口心臓』（『新青年』9月） 泉鏡花『貝の穴に河童の居る事』（『古東多万』9月） 田中貢太郎『支那怪談全集. 上代篇. 近代篇』（博文館） 野村胡堂『奇談クラブ』（四条書房） 小松太郎・菅藤高德訳『世界怪談叢書. 第1ドイツ篇』（先進社） 大関花子訳『世界怪談叢書. 第2英米篇』（先進社） 青柳瑞穂訳『世界怪談叢書. 第3仏蘭西篇』（先進社） 日夏耿之介訳『性科学全集 第11篇 吸血妖魅考』（武侠社） ㊦ 坂口安吾『木枯の酒倉から』（『言葉』1月） ㊦ 川端康成『水晶幻想』（『改造』1月・7月） ㊦ 酒井潔『降霊魔術』（春陽堂 4月） ㊦ 梶井基次郎『檸檬』（武蔵野書院 5月） ㊦ 花田清輝『七』（『サンデー毎日』5月） ㊦ 坂口安吾『風博士』（『青い馬』6月） ㊦ 谷崎潤一郎『武州公秘話』（『新青年』6月～昭和7年2月） ㊦ 坂口安吾『黒谷村』（『青い馬』7月） ㊦ 夢野久作『犬神博士』（『福岡日々新聞』9月～大正7年1月） ㊦ 瀧口修造『絶対への接吻』（『詩と詩論』9月） ㊦ 牧野信一『ゼーロン』（『改造』10月） （→『鬼涙村』芝書店 昭和11年2月） ㊦ 坂口安吾『霓博士の魔顔』（『作品』10月） ㊦ 海野十三『振動魔』（『新青年』11月） ㊦ 牧野信一『バラルダ物語』（『中央公論』12月） ㊦ 尾崎翠『第七官界彷徨』（『文学黨員』（→啓松堂 昭和8年） ㊦ 松永延造『芳香瘤物語』 ㊦ 山田一夫『夢を孕む女』（白水社） ㊦ 龍膽寺雄『化石の街』（新潮社） ㊦ 修羅挑天『仏教より観たる幽霊の正体』（中央出版社）

年	事 項
昭和6年	<p>㊦岡田蒼溟『現代怪異実録』(霊響社)</p> <p>㊦浅野和三郎『ステッドの通信』『霊界通信・新樹の通信』(心靈科学研究会出版部 ~昭和13年)</p> <p>㊦寿岳文章著、柳宗悦・橋詰光春編『ブレイク論集』(柳宗悦刊)</p> <p>㊦伊藤整・永松定・辻野久憲訳『ユリシイズ』(ジョイス) (第一書房 12月)</p> <p>㊦エドガー・ケイシー、研究会啓蒙協会を設立する。</p> <p>㊦南方熊楠、岩田準一あて書簡に幽霊を目撃した体験を書く。</p> <p>㊦『セルパン』創刊される</p> <p>㊦シュペルヴィエル『沖の娘』</p> <p>㊦『魔人ドラキュラ』 (アメリカ映画、トッド・ブラウニング監督、ベラ・ルゴシ主演)</p>
昭和7年	<p>川端康成『抒情歌』(『中央公論』2月)</p> <p>川端康成『慰霊歌』(10月)</p> <p>平山盧江『お岩長屋』</p> <p>田中貢太郎『日本怪談傑作集』(改造社)</p> <p>野村胡堂『新奇談クラブ』3巻(春陽堂 ~昭和8年)</p> <p>㊦大下宇陀児『魔法街』(『改造』1月)</p> <p>㊦平林初之輔『謎の女』(『新青年』1年)</p> <p>㊦冬木荒之介(井上靖)『謎の女(続編)』(『新青年』3月)</p> <p>㊦南沢十七『蛭』(『新青年』3月)</p> <p>㊦瀧口修造『地上の星』(『文学』3月)</p> <p>㊦橋本五郎『鮫人の掟』(『新青年』6月)</p> <p>㊦星田三平『エル・ベッチョオ』(『新青年』9月)</p> <p>㊦藤沢衛彦『東西幽霊考』(六文館 10月)</p> <p>㊦谷崎潤一郎『蘆刈』(『改造』11~12月)</p> <p>㊦福来友吉『心靈と神秘世界』(人文書院 12月)</p> <p>㊦大下宇陀児『宙に浮く首』(春陽堂)</p> <p>㊦瀧口修造『岩石は笑った』</p> <p>㊦龍膽寺雄『風一に関する Episode』『塔の幻覚』『月蝕』</p> <p>㊦潮二郎『水族妖怪譚 水族室の夜』(渡辺州蔵刊)</p> <p>㊦本間俊平『心靈の戦場から』(実業之日本社)</p> <p>㊦岡田蒼溟『蛇淫と幽霊の話』(日本神霊協会)</p> <p>㊦三浦関造『超人の出現 心靈の飛躍』(日本書院)</p> <p>㊦オリヴァー・ロッジ、SPR 第28代会長となる。</p> <p>㊦チャベック『長い長いお医者さんの話』</p>

年	事 項
昭和7年	㊦『ジギル博士とハイド氏』（アメリカ映画、フレデリック・マーチ、ミリアム・ホプキンス主演）
昭和8年	岡本綺堂『異妖新篇』（春陽堂 2月） 邦枝完二『松助怪談』（『講談雑誌』8月） 武野藤介『女の生首と林檎』（『講談雑誌』8月） 豊島与志雄『書かれざる作品』（『靈氣』『逢魔の刻』（白水社 9月） ㊦横溝正史『面影双紙』（『新青年』1月） ㊦日夏耿之介『詩集 咒文』（小山田三郎刊 2月） ㊦太宰治『魚服記』（『海豹』3月） （→『晩年』砂子屋書房 昭和11年6月） ㊦南洋一郎『猛獣征服 吼える密林』（大日本雄辨会講談社 3月） ㊦稲垣足穂『ココア山奇譚』（『新青年』6月） ㊦左頭弦馬『踊り子殺しの哀愁』（『ぷろふいる』9月） ㊦大下宇陀児『恐ろしき臨終』（『新青年』10月） ㊦西脇順三郎『西脇順三郎詩集 Ambarvalia』（椎の木社 9月） ㊦北園克衛『円錐詩集』（鳥羽茂刊） ㊦牧逸馬・林不忘・谷譲次『一人三人全集』16巻（新潮社 ～10年） ㊦野口米次郎『魂の記録読本』（金星堂） ㊦高橋定敬『怪奇探偵実話』（大日本雄辨会講談社） ㊦阿緒木浄『空の怪奇』（日本空の旅社） ㊦桑田欣児『心霊学原理』（帝国心霊研究会） ㊦桑田欣児『靈法秘伝書』（帝国心霊研究会） ㊦松原皎月『靈熱透写療法秘伝書』（洗心会出版部） ㊦永井素童『不開の部屋』（日暮里尋常小学校同窓会） ㊦大坂心霊科学協会、設立される ㊦雑誌『ぷろふいる』（ぷろふいる社 9月～）創刊される ㊦クリスティ『死の獵犬』、ヒルトン『失われた地平線』
昭和9年	内田百閒『旅順入城式』（岩波書店 2月） 夢野久作『難船小僧』（『新青年』3月） 平山盧江『盧江怪談集』（岡倉書房） 田中貢太郎『日本怪談全集』4巻（改造社） 信濃郷土誌刊行会『信州百物語』（信濃郷土誌刊行会） 忠雪山人『古今怪談 百物語』（忠文館書店） ㊦江戸川乱歩『人間豹』（『講談俱樂部』1月～昭和10年5月） （→松柏館書店 昭和10年6月）

年	事 項
昭和9年	<p>㊦小栗虫太郎『黒死館殺人事件』（『新青年』4～12月） （→昭和10年 新潮社）</p> <p>㊦城左門『槿花戯書』（三笠書房 4月）</p> <p>㊦内田百閒作・谷中安規画『王様の背中』（楽浪書院 5月）</p> <p>㊦萩原朔太郎『氷島』（第一書房 6月）</p> <p>㊦海野十三『俘囚』（『新青年』6月）</p> <p>㊦山本禾太郎『幽霊写真』（『ぶろふいる』6月）</p> <p>㊦戸田巽『幻のメリーゴーランド』（『ぶろふいる』8月）</p> <p>㊦西尾正『骸骨』（『新青年』11月）</p> <p>㊦中原中也『山羊の歌』（文圃堂 12月）</p> <p>㊦牧野信一『鬼涙村』（『文藝春秋』12月）</p> <p>㊦長田幹彦『零落』（春陽堂）</p> <p>㊦夢野久作『木霊』</p> <p>㊦吉田弘『神秘・驚異・怪奇の自然譚』（南光社 8月）</p> <p>㊦松原皎月『神伝霊学奥義』（洗心会出版部 11月）</p> <p>㊦浅野和三郎『事実と理論 神霊主義』（嵩山房）</p> <p>㊦政府による心靈学や神秘主義の弾圧が始まる。酒井勝軍、弾圧される。</p> <p>㊦J・B・ライン『超感覚的知覚』、B・シュルツ『肉桂色の店』</p>
昭和10年	<p>宇野信夫「巷談宵宮雨」（東京歌舞伎座 9月） （→『巷談宵宮雨』共同書籍 昭和11年）</p> <p>佐藤春夫『化物屋敷』（『中央公論』10月）</p> <p>城昌幸『殺人淫楽』（版画荘 10月）</p> <p>岡本綺堂『支那怪奇小説集』（サイレン社 11月）</p> <p>萩原朔太郎『猫町』（版画荘 11月）</p> <p>富岡直方『日本怪奇物語：江戸時代篇、明治大正昭和篇』2冊 （二松堂書店）</p> <p>山門王吉『妖奇怪談集』（東亜書房）</p> <p>『モーパッサン傑作短編集』第3巻より『怪奇小説集』（辰野隆等訳） （河出書房）</p> <p>㊦夢野久作『ドグラマグラ』（松柏館書店 1月）</p> <p>㊦光石介太郎『霧の夜』（『新青年』1月）</p> <p>㊦横溝正史『鬼火』（『新青年』2～3月）</p> <p>㊦中勘助『ゆめ』（『母の死』岩波書店 4月）</p> <p>㊦坪田讓治『お化けの世界』（『改造』3月）（→竹村書房 4月）</p> <p>㊦小栗虫太郎『鉄仮面の舌』（『新青年』4～5月）</p>

年	事 項
昭和10年	<p>㊦角田喜久雄『妖棋伝』（『日の出』4月～昭和11年6月） （新潮社 昭和11年7月）</p> <p>㊦太宰治『ロマネスク』（『日本浪漫派』5月） （『晩年』砂子屋書房 昭和11年6月）</p> <p>㊦小栗虫太郎『白蟻』（ふろふいる社 5月）</p> <p>㊦横溝正史『蔵の中』（『新青年』8月）</p> <p>㊦小栗虫太郎『紅毛傾城』（『新青年』10月）</p> <p>㊦伊東銳太郎『怪奇殺人 人狼』（日本公論社 10月）</p> <p>㊦角田喜久雄『蛇男』</p> <p>㊦三上於菟吉『幽霊賊』（サイレン社）</p> <p>㊦加藤吉人『心霊科学概要』（加藤吉人刊 6月）</p> <p>㊦岩崎桃花『心霊科学総論』（天成会宣伝部 12月）（発禁処分）</p> <p>㊦桜井忠温『死後のために』（千倉書房）</p> <p>㊦山門王吉『怪奇犯罪実話集』（東亜書房）</p> <p>㊦奈緒順『世界珍奇怪奇見世物』（東亜書房）</p> <p>㊦奈緒順『世界の謎』（東亜書房）</p> <p>㊦大橋博吉『高橋有明上人神変記』（同愛会）</p> <p>㊦本堂平四郎『怪談と名刀』（羽沢文庫）</p> <p>㊦杉田瓢村『青いレンズ探る世界の怪奇』（新科学社）</p> <p>㊦松原皎月『霊の御網』（洗心霊盟会）</p> <p>㊦松原皎月『霊能開発法』（洗心会出版部）</p> <p>㊦修羅桃天『仏教と幽霊の研究』（成光館書店）</p> <p>㊦藤沢衛彦『日本伝説研究』8巻（三笠書房）</p> <p>㊦J・アーサー・フィンドレイ著、高窪喜八郎・高窪静江訳『科学的 実証的霊魂不滅論』（モナド）</p> <p>㊦ H・リード『緑のこども』、ホイトリイ『黒魔団』</p>
昭和11年	<p>横溝正史『妖説血屋敷』（『富士』4月増刊号）</p> <p>岡本綺堂『怪獣』（春陽堂 12月）</p> <p>㊦横溝正史『かひやぐら物語』（『新青年』1月）</p> <p>㊦石川淳『山桜』（『文藝汎論』1月）</p> <p>㊦江戸川乱歩『怪人二十面相』（『少年倶楽部』1～12月）</p> <p>㊦北条民雄『いのちの初夜』（『文学界』2月）</p> <p>㊦西尾正『海蛇』（『新青年』4月）</p> <p>㊦蘭郁次郎『魔像』（『探偵文学』5月）</p> <p>㊦小栗虫太郎『二十世紀鉄仮面』（『新青年』5月～9月） （→春秋社 9月）</p>

年	事 項
昭和11年	<p> ㊦妹尾アキ夫『深夜の音楽葬』（『新青年』7月） ㊦海野十三『深夜の市長』（『新青年』7月） ㊦横溝正史『舌』（『新青年』7月） ㊦大下宇陀児『凧』（『新青年』8月） ㊦木々高太郎『皺の手』（『月刊文章』8月） ㊦原民喜『行列』（『三田文学』9月） ㊦立原道造『かろやかな翼ある風の歌』（『コギト』9～11月） ㊦左川ちか『左川ちか詩集』（昭森社 11月） ㊦大手拓次『藍色の墓』（アルス 12月） ㊦蘭郁次郎『夢鬼』 ㊦柳田国男『妖怪談議』 ㊦岡田蒼溟『霊怪真話』（慈雨書洞） ㊦岡田蒼溟『妖怪真話』（モナス） ㊦岡田建文『心霊不滅の実証 奇蹟の書』（紀元書房） ㊦『心霊界読本』（心霊界本部） ㊦浅野和三郎『心霊から観たる世界の動き』（柳香書院） ㊦島影盟『墓相と心霊問題批判』（大東出版社） ㊦霊媒小林壽子、土井晚翠らの眼前で九条武子の霊を呼び出す。 ㊦『報知新聞』に、心霊写真が掲載される。 ㊦第二次大本教弾圧（書籍 285 点が発禁処分となり、大本教全施設が破壊され、教団は解散させられる。） ㊦『巨人ゴーレム』（チェコ映画、ジュリアン・デュヴィヴィエ監督） ㊦ラヴクラフト『超時間の影』、R・E・ハワード『征服王コナン』、レルネット＝ホーレニア『バグゲ男爵』 </p>
昭和12年	<p> 橘外男『逗子物語』（『新青年』8月） 渡辺啓助『壁の中の男』（『モダン日本』8月） 伊藤整『幽鬼の街』（『文芸』8月） （→『街と村』第一書房 昭和 14 年 5 月） 橘外男『蒲団』（『オール読物』9月） 角田喜久雄『鬼啾』（『新青年』9月） 石川文一『琉球の怪談集』（琉球叢書発行所） 江戸川乱歩『幻想と怪奇』（版画荘） ㊦渡辺啓助『聖悪魔』（『新青年』1月） ㊦久生十蘭『黒い手帳』（『新青年』1月） ㊦山本禾太郎『抱茗荷の説』（『ぷろふいる』1月） ㊦南洋一郎『冒険探険 決死の猛獣狩』（大日本雄辨会講談社 1月） </p>

年	事 項
昭和12年	<p>㊦江戸川乱歩『幽霊塔』（『講談倶楽部』3月～昭和13年4月） （→新潮社 昭和13年）</p> <p>㊦太宰治『二十世紀旗手』（版画荘 7月）</p> <p>㊦金子光晴『鮫』（人民社 8月）</p> <p>㊦モーゼス『霊訓』（心霊科学研究会出版部 9月）</p> <p>㊦久生十蘭『魔都』（『新青年』10月—昭和13年9月）</p> <p>㊦高橋鐵『怪船『人魚号』（『オール読物』11月）</p> <p>㊦内田百閒『青炎抄』</p> <p>㊦内田百閒『北溟』</p> <p>㊦角田喜久雄『髑髏銭』（～昭和13）</p> <p>㊦久生十蘭『湖畔』</p> <p>㊦三角寛『山窩血笑記』（大日本雄辨会講談社）</p> <p>㊦小山莊一郎『怪奇境探險記』（大日本雄辨会講談社）</p> <p>㊦浅野和三郎『霊界通信・小桜姫物語』（心霊科学研究会出版部 2月）</p> <p>㊦岡田蒼溟『心霊の書』（紀元書房）</p> <p>㊦浅野和三郎『心霊読本』（心霊科学研究会出版部）</p> <p>㊦浦川和三郎『聖イグナチオの真意を汲める心霊修行. 卷1』 （公教神学校）</p> <p>㊦原田庄太郎『誠心修養之道』（誠之道会本部）</p> <p>㊦渡辺一夫訳『未来のイヴ』（リラダン）（白水社）</p> <p>㊦アーサー・フィンドレー著、浅野和三郎訳『新時代と新信仰』 （心霊科学研究会出版部）</p> <p>㊦浅野和三郎急逝し、兄浅野正恭が、東京心霊科学協会理事長に就任する。</p> <p>㊦ステープルドン『スター・メイカー』、ボスコ『ズボンをはいたロバ』</p>
昭和13年	<p>豊島与志雄『小悪魔集 白い朝』（河出書房 1月）</p> <p>田中貢太郎『新怪談集. 実話篇、物語篇』（改造社 6月）</p> <p>幸田露伴『幻談』（『日本評論』9月）（→日本評論社 昭和16年8月）</p> <p>高橋鐵『交霊鬼懺悔』（『オール読物』12月）</p> <p>㊦川端康成『金塊』（『改造』4月）</p> <p>㊦中原中也『在りし日の歌』（創元社 4月）</p> <p>㊦伊藤整『幽鬼の村』（『文学界』8月） （→『街と村』第一書房 昭和14年5月）</p> <p>㊦橘外男『死の蔭探険記』</p> <p>㊦海野十三『生きている腸』</p> <p>㊦久生十蘭『生霊』</p>

年	事 項
昭和13年	<p>㊦原民喜『玻璃』</p> <p>㊦浅野和三郎『心霊学より日本神道を観る』(心霊科学研究会 6月)</p> <p>㊦浅野和三郎『欧米心霊行脚録』(心霊科学研究会出版部 8月)</p> <p>㊦梶天真『幽霊は語る』(文賢社)</p> <p>㊦梶天真『心霊現象と死後の生活』(大洋社出版部)</p> <p>㊦石川雅章『裸体にしたお化けと幽霊』(教材社)</p> <p>㊦浅野和三郎編『個人的存在の彼方』(心霊科学研究会出版部)</p> <p>㊦齋藤磯雄訳『残酷物語』(リラダン)(三笠書房 6月)</p> <p>㊦アルフレッド・ローゼンベルグ『二十世紀の神話』(中央公論社)</p> <p>㊦グラッグ『アルゴールの城』</p>
昭和14年	<p>折口信夫『死者の書』(『日本評論』1~3月) (→青磁社 昭和18年9月)</p> <p>横溝正史『髑髏検校』(『奇譚』1~7月)</p> <p>橘外男『令嬢エミーラの日記』(『オール読物』3月)</p> <p>泉鏡花『縷紅新草』(『中央公論』7月)</p> <p>火野葦平『怪談宋公館』(『南支新報』10月)</p> <p>雄山閣編『物語近世文学』第1巻『南総里見八犬伝 上巻』、第7巻『椿説弓張月』、第10巻『怪談奇譚名作集』、第13巻『西遊記』(雄山閣出版)</p> <p>落合良平『西洋怪奇実話集』(代々木出版社)</p> <p>三角寛『縛られた女たち』(『尼僧と幽霊』収録、大日本雄辨会講談社)</p> <p>国枝史郎訳『恐怖街』(サンダース他)(松光書院)</p> <p>㊦久生十蘭『海豹島』(『大陸』2月)</p> <p>㊦坂口安吾『紫大納言』(『文体』2月)</p> <p>㊦橘外男『マトモッソ溪谷』(『新青年』3月)</p> <p>㊦小栗虫太郎『有尾人』(『新青年』5月)</p> <p>㊦久生十蘭『昆虫図』(『ユーモアクラブ』8月)</p> <p>㊦久生十蘭『地底獣国』(『新青年』8~9月)</p> <p>㊦新見南吉『花を埋める』(『哈爾濱日日新聞』10月)</p> <p>㊦坂口安吾『閑山』(『文体』12月)</p> <p>㊦内田百閒『東京日記』(新潮社)</p> <p>㊦中島敦『悟浄歎異』(脱稿) (→『南島譚』今日の問題社 昭和17年11月)</p> <p>㊦浅野和三郎『心霊小品集』(心霊科学研究会出版部)</p> <p>㊦浅野和三郎『心霊縦横談』(心霊科学研究会出版部)</p> <p>㊦『心霊生活の極致 聖なる委託』(ドン・ルオデー)(誠文館)</p>

年	事 項
昭和14年	㊦雑誌『アンノウン』創刊される。 ㊧ネイサン『ジョニーの肖像』、ラヴクラフト『アウトサイダー』
昭和15年	森銑三『仕舞扇』（『笈』8月） ㊦坂口安吾『紫大納言』（『文体』2月） ㊦地味井平造『水色の目の女』（『新青年』6月） ㊦野溝七生子『女獣心理』（八雲書林 7月） ㊦大手拓次『蛇の花嫁』（龍星閣 12月） ㊦石上玄一郎『絵姿』（中央公論社） ㊦稲垣足穂『彌勒』（→昭和21年 小山書店） ㊦三橋鷹女『向日葵客』 ㊦火野葦平『石と釘』 ㊦蘭郁二郎『植物人間』 ㊦西東三鬼『旗』（三省堂） ㊦齊藤史『魚歌』 ㊦前川佐美雄『歌集 大和』（甲鳥書院） ㊦雄山閣編『物語近世文学』第2巻『南総里見八犬伝 下巻』、第12巻『水滸伝』、第14巻『水滸伝 続』（雄山閣出版） ㊦桜井和市訳『幽霊部屋』（パウル・エルンスト）（弘文堂書房） ㊦心霊学研究会『心霊現象治病法』（日本仏教新聞社 11月） ㊦原田淑人『東亜古文化研究』（座右宝刊行会） ㊦浅野和三郎『再生問題の検討』（心霊科学研究会出版部） ㊦岡田建文『靈魂の神秘』（国民書院） ㊦黒川富三郎『天心靈明』（天心会本部） ㊧ビオイ＝カサーレス『モレルの発明』、ブツアーティ『タターの砂漠』
昭和16年	三橋一夫『短編小説集 第三の耳』（三橋一夫刊） ㊦高橋鐵『幻奇小説 世界神秘境』（霞ヶ関書房 1月） ㊦草野心平『富士山』（日本詩人協会編『現代詩』河出書房 5月） （→昭和18年） ㊦富沢赤黄男『句集 天の狼』（棋艦発行所 8月） ㊦三島由紀夫『花ざかりの森』（『文芸文化』9～12月） （→七丈書院 昭和19年10月） ㊦山口剛『近世小説』3冊（創元社） ㊦前川佐美雄『歌集 白鳳』（ぐろりあ・そさえて） ㊦浅野和三郎『第六感と精神統一法』（心霊科学研究会 6月） ㊦秋元巳太郎『心霊維新』（救世団出版供給部）

年	事 項
昭和16年	<p>㊦益田甫『新婚化物屋敷』（東成社）</p> <p>㊦福田清人・本山桂川編『長崎文化物語』（八弘書店）</p> <p>㊦深浦正文『仏教文化物語』（興教書院）</p> <p>㊦浅野和三郎『死者に交わる三十年から』（心霊科学研究会）</p> <p>㊦浅野和三郎『諸名家の心霊観』（心霊科学研究会出版部）</p> <p>㊦浅野和三郎『心霊問題の表と裏』（心霊科学研究会出版部）</p> <p>㊦土井晚翠訳『心霊研究』（バーレット）</p> <p>㊦『世界女流作家全集』7巻、第1巻（ヒュルスホフ作、小口優訳『バルバラ 呪いの樹』収録）、第5巻（チェイムスン作、中橋一夫訳『女人怪獣』第7巻（ラーゲルレーヴ作、西田正一訳『幻の馬車』収録）（モダン日本社）</p>
昭和17年	<p>㊦中島敦『古譚』（『山月記』『文字禍』収録）（『文学界』2月）</p> <p>㊦中島敦『光と風と夢』（『狐憑』『木乃伊』『山月記』『文字禍』収録）（筑摩書房 7月）</p> <p>㊦高橋鐵『科学幻奇小説 南方夢幻郷』（東栄社 7月）</p> <p>㊦中島敦『南島譚』（『悟浄出世』『悟浄歎異』収録）（今日之問題社 11月）</p> <p>㊦中島敦『名人伝』（『文庫』12月）</p> <p>㊦野村胡堂『地底の都』</p> <p>㊦前川佐美雄『歌集 天平雲』（天理時報社）</p> <p>㊦幸田露伴『露伴史伝小説集』巻1～2（『怪談』収録）（中央公論社）</p> <p>㊦心霊学研究会『心霊現象の文献と其科学的研究』（日本仏教新聞社）</p> <p>㊦ブランショ『アミナダブ』</p>
昭和18年	<p>森銑三『月夜車』（七文書院）</p> <p>㊦小野十三郎『詩集 風景詩抄』（湯川弘文堂 2月）</p> <p>㊦石上玄一郎『精神病理学教室』（中央公論社）</p> <p>㊦新美南吉『鳥右衛門諸国をめぐる』</p> <p>㊦新美南吉『百姓の足坊さんの足』</p> <p>㊦ヘッセ『ガラス玉演戯』、J・レイ『マルベルチュイ』、サン・テグジュペリ『星の王子さま』</p>
昭和19年	<p>㊦川端康成『故園』（『文芸』1月）</p> <p>㊦梅原末治『支那考古学論攷』（弘文堂 9月）</p> <p>㊦鈴木大拙『日本的靈性』（大東出版社）</p> <p>㊦H・S・ホワイトヘッド『ジャンビー』、ボルヘス『伝奇集』</p>

年	事 項
昭和20年	⑤太宰治『竹青』（『文芸』1月） ⑥太宰治『お伽草紙』（筑摩書房 10月） ⑦埴谷雄高『死霊』（未完）（『近代文芸』10月～平成9年2月） ⑧中国軍、チベットに侵攻する。ダライラマ14世、チベット最高指導者となる。 ⑨C・ウィリアムズ『万霊節の夜』、グラック『陰鬱な美青年』